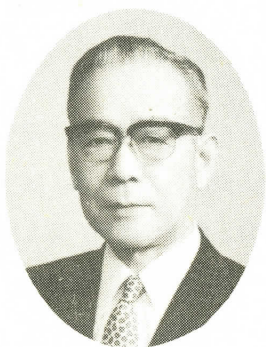


## すぐれた環境の形成を目指して



私たち宮城県環境は、きれいな空気、清らかな水、豊かな緑などに包まれた美しい自然を有しており、自然災害の発生も少なく、安定した住み良い県土を形成しています。

県民の生活環境を常に快適な状態に保持するため、このすぐれた県土を公害による汚染から守り、自然環境の保護・保全を図っていくことが必要です。近年、特に、大気、水、植生等自然界における環境資源は無限、無尽蔵に存在するものではないという認識が高まり、環境には本来、現状の改変に対して一定の許容されるべき限界があるという考え方が定着してきています。いわゆる「環境容量」という考え方です。

今後、各種の開発行為等が行われるに際しては、環境へ与える影響はこの環境容量の範囲内にとどめ、できるだけ良好な環境を保持していくことに努めることが大切です。即ち、環境の現状が環境容量の範囲内にある場合は、可能な限り現状水準もしくは現状に近い水準が維持されるように心がけ、現状が環境容量を超過し、もしくは超過する恐れがある場合には、これを是正し、もしくはその進行を抑止するよう努めていくことが必要です。

私たちは、このような考え方を環境行政の中により積極的に取り入れるため、過去3か年に亘って各種の資料を集積し、調査、検討を行ってきましたが、その結果を「宮城県環境管理計画」としてとりまとめました。

この計画は、別名を「ABC計画」と呼ぶこととしていますが、AはAmenity、BはBlue、CはCleanの頭文字をとったものでありまして、「Blue」は、汚染されない青い空や海、緑濃い野や山などを、「Clean」は、清らかな水の流れ、さわやかな大気、静穏なたたずまいなどを意味しております。県民共通の願いであるこのBlueでCleanな環境の中に「Amenity」——快適さを求めること、そのための一つの役割を果たすこと、これがこの計画策定の趣旨であります。従来の物質的